

「 第 二 創 業 」

「企業30年説」は、創業から守成への難しさを、一般的な言葉で言われるのでしょう。私は、そんな軽薄なものではないと考えています。

なぜなら、その事業が社会から必要とされ、そこに働く人達が、お客様のことを誰よりも真剣に考え、不便や不安や心配事の解消に務め、お客様の役に立てば、継続できるはずだからです。

私共中央総研も、ないない尽くしの中からスタートし、その都度、絶妙のタイミングで、沢山のお客様に助けられ、ご支援を頂戴し今日があります。

お客様企業は、永続性が前提であるのに、税理士業は、一身専属の一代限りの資格業です。この矛盾をどうにかしたい。かといって、能力の無い身内を試験を迂回してまで資格を取らせたくない。

私自身、人財教育には、相当なエネルギーと時間を使って参りました。時には、私のあまりにストイックな希望に、付いて来る者が無く、もう無理かも知れないとも思いました。

30年の歴史のうち、大半の20年は、人財教育の時間だったように思います。

中央総研も、いよいよ、世代交代です。「第二創業」のスタートの年です。

私自身、30代の時には30代の、40代の時には40代のお客様が、来てくださいました。自分の年齢を中心に、前後10歳が、ゼネレーション・ギャップも無いでしょう。仲間として、時にライバルとして切磋琢磨してきたように思います。

私は、64歳になりました。税理士として経営者として、同年代の経営者も、押しなべて世代交代・次世代への承継の時期です。

幸い、30代の若手が、中心に今を「第二創業」と位置づけ、頑張ってくれています。“知識と信念”の両方が、高いレベルで均衡していれば、どんな時代も求められます。私共は、会計において、財務において、税務において、県下ナンバーワンは当然のこと、全国屈指の事務所として、お客様の要望に応じて行こう、期待を超えて行こうとしています。

更に、次なる「第三創業」「百年企業」になれば本物でしょう。

代々初代。そんな心構えで、果敢に挑戦して貰いたいと願っています。

社長、我が社は、すでに「公器」です。決して、私物ではありません。お互い、より良い日本を作るため、粉骨砕身、努力して参りましょう。



今月のポイント

人財を残すことが

社長の最後の仕事です。